sun-mech.item
No.7

酸化皮膜をこすらず除去

ホロクリン・ジェル

価格●1800円(100g)

問い合わせ/北陸連化　Phone0778-51-7155
http://www.horokurin.co.jp

❶下の写真のように柔らかいウエスでこするか、スポンジを使って水を流しながら皮膜を落とす。ウエスで拭った場合でも、その後の水洗いは必要だ。

❷テストに用いたのは、ステンレス製スリップオンサイレンサーのパイプ部分。余りっぱなしは面で表面に押し込んでおいた方いて、すっかり赤紫色に変色。

❸力仕事は特ひとつしていないが、酸化皮膜による汚れは完全に除去できた。クリーニングと同時に、焼け具合が気に入らないマフラーの下処理にも使利。

❹写真は素手で行っているが、手肌が荒れる事もあるので、直接触れることは避け、ゴム手袋などを利用しよう。クリスの道具より軽い力で、表面にサッと塗る。

僅かにグリーンがかったジェル状の容器はほとんど無臭。指で触れると非常に滑らかで、切削用研磨剤のざらつきはない。ステンレス・メッキマフラー用に加えて、チタン用も発売された。

一般的に、錆びない・腐食しないステンレスは、マフラーを中心に用いられている。だが、長期使い続ければ、時間と共に素材表面は赤色っぽい酸化皮膜で覆われるようになる。こうした酸化皮膜を除去するには、微細なコンパウンドやステンレス専用の研磨剤を使うことが多いが、ステンレス本来のツヤは復活するものの、個別の研磨成分による細かな傷が残る弱点もあった。

そのような、"物理的作戦"に対して、完全な"化学的作戦"で酸化皮膜を除去するのが、化学工業薬品を製造販売する専門メーカー、北陸連化のホロクリン・ジェルである。ホロクリンシリーズは、長期間の在庫中に皮膜の付いた金属素材や、製品製造時の溶接焼けを落とす目的では前から商品化されていたもの。その特徴を生かし、個人ユーザーでも使いやすいジェル状にしたものだ。

テストでは、数年間放置して茶褐色に酸化皮膜が付着したステンレスマフラーを使用。効果をはっきり見せるため、マスキングテープで境界線を設け、ウエスやハケで表面に塗布。普通のクリーナーなら、次にウエスでゴシゴシと拭くが、ホロクリン・ジェルはただ待っただけ。使用説明では、頑固な汚れには3～5分放置した後に柔らかい布でこすり落とすと指示されている。

そして水道水を掛けながらスポンジで表面に残った成分を落とすと、皮膜は完全に除去されて本来の輝きが蘇ったのだ。もちろんこすっていないから、研磨作業を原因とするスクラッチも全く発生していない。

簡単かつ確実な効果を期待できるが、唯一の注意点は塗布した部分はその後十分に水洗いする必要がある。成分は酸性で、その際の働きでステンレス表面の酸化皮膜を分解するのが、そのままでは酸性成分が通到に働いてしまうからだ。

塗布面を水洗いできない部分には使用しないが、通常大抵きれいなサンメカには見苦しさは無い商品である。

s'un-mech.impression

PROFILE

福井県の北陸連化は、化学工業薬品や公害防止用機器の製造販売を行う、ケミカルのプロ。ホロクリンとは同社の金属表面処理剤のブランド名で、金属表面に付着した自然発生的な酸化皮膜や、溶接熱による急激な酸化皮膜を除去する。容量20kgの工業用は、原液または水によって濃度を調整して使用する。新発売されたホロクリン・ジェルは、成分をジェル状に変質したもので、サンメカにも使い易い。固形の研磨成分だけでこすり落とすのではなく、酸化皮膜を化学的に分解するため、素材表面を傷つけず、コーティング成分によりつやと防錆効果が得られるのが特徴。

100文字総括

まったくこすらないままステンレスの酸化皮膜が除去できる能力には驚くより他なし。車体から外したマフラーに使用するなら、風呂用カビ除去剤のように、スプレーボトルに詰めた液体タイプが出ると便利かも。栗田　晃